様式4

令和 8 年 9 月 30 日

令和8年度　学校関係者評価及び改善策

（ 中間 ・ 最終 ）

呉中央中学校区　校番13　呉中央中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標，指標の設定の適切さ	A	・多感な時代ですので，ぶれずに目標・指標を設定することに一貫性を希望します。 ・「自分を育てる」という目標は大人になっても大切なことだと感じます。シンプルな目標ではあるが，奥深く人間形成につながると感じました。
目標達成のための方策の適切さ	A	・よく努力されています。 ・やることを明確にすることで，生徒及び先生にも共有することができている。生徒を育てるという意識が感じられます。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	・三点固定ができている割合が低いことについて，中学生になり勉強や部活で生活のリズムに変化があったと分析している点について納得できた。 ・大変謙虚に分析されています。 ・目標値を下回っている目標もありますが，最大の取組をされていると感じました。無理のないよう続けてください。
今後の改善策（案）の適切さ	A	・学校は良くやっていると思う。 ・最終目標は高校受験であると思うが，具体的に各高校への進学率，また，学力の有無を問うことも一理あると思う。 ・無理な改善策（案）ではなく，少しでも良くなるような取組だと感じました。「あいさつ」が上昇していることに努力を感じました。
その他		・家庭でしなければいけないことが劣っている。PTAの実行委員会で話し合いができないのかな？ ・先生か学校側が発信すれば問題点を理解できる親もたくさんいるはずである。 ・生徒への質問10，11は学年が上がるにつれ改善しているが，保護者への質問5が逆に低下している点について興味深く感じた。保護者の期待値が上がるためだろうか。 ・保護者への質問6は学年で横ばい，一方，生徒質問10，11は中1が低く，その後改善。中1生はスマホを自室に持ち込み，学習への取り掛かりが遅いと推測できる。 ・人間を相手の職業では働き方改革を実行するのが大変難しいです。国の制度で仕方なこととはいえ，必ずすべきことなのかどうか，現場では予測不可能なことが起こり得るので，何が一番大切なのか優先順位を考えながら行動してほしいです。 ・毎年，生徒のための目標設定を掲げ，その目標の達成に向け学校全体で取り組まれている姿が形になっていると思います。小中一貫教育の中で，しっかりとした計画が見られます。高校・大学・社会人というステップがありますが，それぞれの段階で活躍する人材を育成されていると感じています。 ・現在試行錯誤の中で進められているので，数年後を見ないと判断は出せないでしょうが，生徒に真摯に向き合っていただけていることが読み取れ，とても評価させていただいています。頑張ってください。

※　評価は，A（とても適切），B（概ね適切），C（あまり適切でない），D（まったく適切でない），N（分からない）

学校関係者評価を受けての今後の改善策	学園授業スタイルに基づく授業改善や探究的な学習を継続し，生徒が思考し表現する場面を意図的に設定することで，深い学びの実現を図る。また，家庭学習の達成率が目標を下回っていることから，呉中央スタンダードや試験計画表を活用して学習状況を把握し，Qubena等を効果的に活用した個別支援を充実させる。 自尊感情の向上に向けては，行事や異学年交流等を通して生徒が活躍し，互いに認め合う機会を増やすとともに，個人面談等を通して生徒理解を深める。 三点固定については，特に7年生の生活リズムの確立に向け，家庭との連携やメディアコントロールの指導を充実させる。 さらに，生徒と向き合う時間の確保及び長時間勤務の縮減に向け，教職員の意見を基に会議や業務の見直し，ICT・AIの活用等を学校全体で進める。 いじめ防止については，道徳や日常の指導，いじめ撲滅キャンペーン等を通して，いじめを絶対に許さない意識と風土の醸成を図る。今後も評価結果を継続的に検証し，生徒の実態に応じた改善を組織的に推進する。